

第 3 次豊橋市環境基本計画

進捗状況

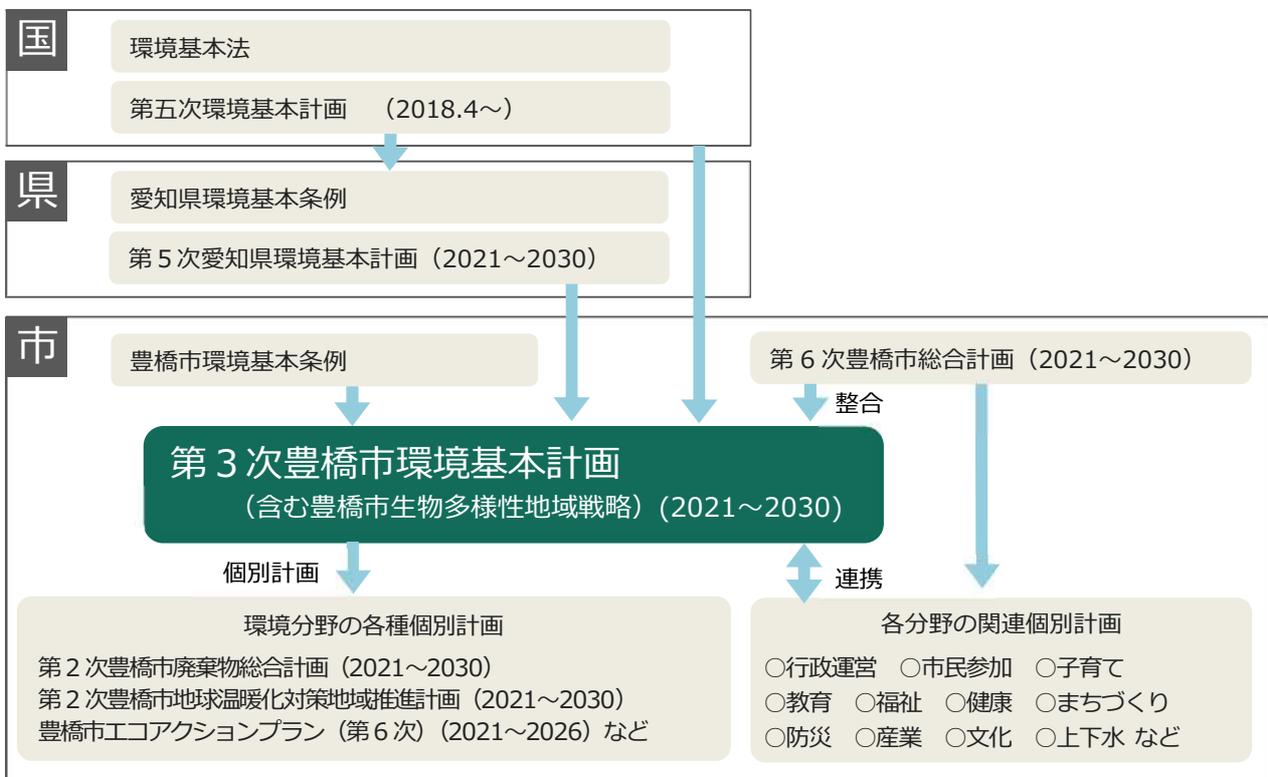
第3次豊橋市環境基本計画策定の目的

第3次豊橋市環境基本計画は、「豊橋市環境基本条例」第8条の規定に基づき、環境の保全に関する長期的な目標及び施策の方向を定め、総合的かつ計画的に施策を推進するために策定するものです。

第3次豊橋市環境基本計画の位置づけと役割

第3次豊橋市環境基本計画は、「豊橋市環境基本条例」の基本理念や基本方針を受け、国及び県の環境基本計画や「第6次豊橋市総合計画」との整合を図るとともに、環境の保全・創出などに関する各種計画とも整合・連携させることにより、本市における環境行政を総合的に進めるための計画として位置づけます。

また、記載内容の一部を「生物多様性基本法」第13条に規定する「豊橋市生物多様性地域戦略」に位置づけ、本市の生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画とします。



第3次豊橋市環境基本計画の期間

第3次豊橋市環境基本計画の対象期間は、2021年度から2030年度までの10年間とします。

ただし、環境面においては社会的な動きも速いことから、概ね計画策定後5年を目処として、社会情勢や国の施策などの変化に応じて施策の見直しを行うこととします。

なお、計画期間だけでは良好な環境の形成が困難な場合もあることから、必要に応じて中長期的な視点をもって進めます。

第3次豊橋市環境基本計画の構成

基本理念

環境基本条例を踏まえた、計画期間 10 年間の環境の保全に関する本市の基本となる考え方

ともに変わろう 地球と私たちの未来のために

環境像

基本理念に従い、本市が目指す将来の環境の姿

豊かな自然と人がはぐくみ 次世代につなぐ「環境先進都市 とよはし」

■ めざすまちの姿

- 【環境】 自然の恵みを受けながら健康に暮らせる持続可能なまち
- 【経済】 地域で価値が生まれ循環する自立可能なまち
- 【社会】 次世代のために変革と行動をするまち

環境目標

基本理念及び環境像の実現を図るため、環境基本条例第7条に規定する基本方針や国・県の環境基本計画を受け、環境の側面ごとに定める目標

定量目標

環境目標に対する取組目標で市域全域の環境が目標にどう近づいているのかを計る項目

指標

環境目標の達成に向けた状態を表す指標

環境目標Ⅰ.

低炭素で持続可能な地域をつくる

【気候変動対策】

基本施策 ※1

個別施策 ※2

環境目標Ⅱ.

豊かな自然を守り育てる

【生物多様性・自然共生】

基本施策 ※1

個別施策 ※2

環境目標Ⅲ.

効果的・効率的に資源を循環する

【資源循環】

基本施策 ※1

個別施策 ※2

環境目標Ⅳ.

健全で快適な暮らしを確保する

【生活環境保全】

基本施策 ※1

個別施策 ※2

環境目標Ⅴ.

環境共生の価値観と知恵をはぐくみ、行動する

【環境学習・行動】

基本施策 ※1

個別施策 ※2

分野を横断した環境・経済・社会の統合的なアプローチ、多様なパートナーシップの強化により推進する取組

重点取組

1. 再生可能エネルギー利用 100%のまちづくり
2. みんなでつなげる生態系ネットワークづくり
3. 食品ロス対策
4. プラスチックごみ対策
5. 環境政策と福祉政策の連携

- ※1 環境目標を達成するための基本となる施策で、各環境目標達成のための個別施策を実施するに当たり、総合的な推進を図るため、各施策を環境課題ごとに体系化し、その上位施策として位置づけたもの
- ※2 環境目標を達成するための具体的な施策で、基本施策を構成する下位施策として位置づけたもの

分野別環境施策の進捗状況

分野別環境施策

環境目標	基本施策	定量目標及び指標
<p>環境目標Ⅰ. 低炭素で持続可能な地域をつくる</p> <p>【気候変動対策】</p>	<p>I-1.低炭素型の暮らし・まちづくり</p> <p>I-2.再生可能エネルギーの利用促進</p> <p>I-3.気候変動への適応</p>	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○温室効果ガス総排出量（削減率） <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギー施設の設置容量 ○エコファミリーの登録件数
<p>環境目標Ⅱ. 豊かな自然を守り育てる</p> <p>【生物多様性・自然共生】</p>	<p>Ⅱ-1.生物多様性の保全</p> <p>Ⅱ-2.自然の恵みの持続的な享受</p> <p>Ⅱ-3.生物多様性を支えるしくみづくり</p>	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内の生物多様性チェックリストの項目達成率 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊橋の自然に愛着や関心がある人の割合 ○自然環境関連イベント等への参加者数
<p>環境目標Ⅲ. 効果的・効率的に資源を循環する</p> <p>【資源循環】</p>	<p>Ⅲ-1.ごみ減量の推進</p> <p>Ⅲ-2.リサイクルの推進</p> <p>Ⅲ-3.廃棄物の適正・安定的な処理の推進</p>	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リサイクル率 ○最終処分量
<p>環境目標Ⅳ. 健全で快適な暮らしを確保する</p> <p>【生活環境保全】</p>	<p>Ⅳ-1.大気・水環境等の保全</p> <p>Ⅳ-2.水資源の保全</p> <p>Ⅳ-3.美しく暮らしやすいまちづくり</p>	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大気等環境基準の達成率 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美化活動（530運動実践活動）の参加者数 ○身近な生活環境保全への市民の満足度
<p>環境目標Ⅴ. 環境共生の価値観と知恵をはぐくみ、行動する</p> <p>【環境学習・行動】</p>	<p>V-1.環境に関する教育・啓発の推進</p> <p>V-2.環境保全活動の推進</p> <p>V-3.環境情報の収集・発信</p>	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境保全活動に取り組んでいる人の割合 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境学習で学んだ人数（環境学習出前講座や学習イベント等への参加人数） ○環境情報の提供数

低炭素で持続可能な地域をつくる

【気候変動対策】

市民や事業者と一体となって低炭素型の暮らし・ライフスタイルやまちづくりを推進するほか、気候変動の影響への対策としての適応策を推進し、低炭素で持続可能なまちを目指します。

基本施策と取組状況

1 低炭素型の暮らし・まちづくり

- ▶ 緑のカーテンや屋上緑化を公共施設へ設置し、節電・省エネ対策に取り組んだ。また、市民に対してもエコファミリー制度により節電・省エネ実践行動への支援を行った。
- ▶ 温室効果ガスの排出量削減のため、市民や事業者が購入する次世代自動車などの費用の一部を助成し普及啓発を図った。

2 再生可能エネルギーの利用促進

- ▶ エネルギーの地産地消の推進を図るため、市民や事業者に来場参加型のイベントを開催したほか、公共施設では市民館などを対象とした、民設・民営による太陽光パネル設置（PPA 事業）の公募を実施した。
- ▶ 市民に対し、住宅への創エネ・省エネ・蓄エネ設備の導入費用の一部を助成し、再生可能エネルギーの普及促進及びエネルギーの地産地消の推進を図った。

3 気候変動への適応

- ▶ 気候変動による影響に関心を持ち理解を深めるため、家庭でもできる地球温暖化に対する緩和策や適応策の実践事例について啓発用パネルを活用したイベントを開催した。

定量目標と指標

定量目標	基準年度 (2015 年度)	参考値 (2018 年度)	2019 年度※	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	目標値 (2030 年度)
温室効果ガス総排出量 (2015 年度比削減率)	-	5.9%削減	9.3%削減					46%削減
指 標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020 年度)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	目標値 (2030 年度)
再生可能エネルギー 施設の設置容量	243,153kw (2019 年度)	268,917kw	278,979kw					657,900kw
エコファミリーの登録 件数	16,604 件 (2019 年度)	17,530 件	18,511 件					29,800 件

※ 温室効果ガス総排出量の推計に必要な統計の公表が 2 年度遅れているため、2019 年度が最新となる。

定量目標・指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

定量目標・指標の分析評価

- ▶ 温室効果ガス総排出量の削減率は、2019 年度で 9.3%削減となった。再生可能エネルギーが普及し、電力の排出係数が改善されたことや夏季の気温が低く、冬季の気温が高かったことにより、エネルギー消費量が減少したことが要因と考えられる。
- ▶ 再生可能エネルギー施設の設置容量は、2020 年度と比較して 10,062kw（3.7%）増加したが、目標値に対しては鈍い伸びであった。固定価格買取制度（FIT）による買取価格の低下により、コストメリットが出にくくなっていることが要因と考えられる。
- ▶ エコファミリーの登録件数は、2020 年度と比較して 981 件（5.6%）増加した。「5 3 0 のまち環境フェスタ」をはじめとした各種イベントで登録を積極的に呼びかけたことが要因と考えられる。

社会環境等の分析評価

- ▶ 国の加速するカーボンニュートラルへの動きにあわせ、公共施設への再生可能エネルギーの導入事業をはじめ、市民や事業者による脱炭素化に寄与する設備導入を促進するための支援充実など、まち全体で脱炭素化に向けた取組を進める必要がある。
- ▶ 国は「2030 年代半ばまでに乗用車新車販売で電動車 100%を実現」を示しており、愛知県も 2030 年までの新車販売割合の目標を定めている。本市においても次世代自動車の更なる導入を促進するため、公用車への率先導入や購入補助の拡充を図るとともに、車両の普及に伴うインフラ整備についても検討する必要がある。

今後の展開

- ▶ 本市のゼロカーボンに向けた取組や気候変動への適応について、市民や事業者の関心を更に深めていくことが必要であるため、今後も継続して分かりやすく学習できる参加型イベントの実施や、地球温暖化に関する情報発信を行っていく。
- ▶ エネルギーの地産地消の推進を図るため、PPA事業などの手法により、公共施設への太陽光発電設備などの導入を進めていく。

多様な自然環境や生きものの保全を進めるとともに、生物多様性がもたらす自然の恵みを有効活用することで、豊かな自然と人が共生するまちを目指します。

基本施策と取組状況

1 生物多様性の保全

- ▶ 地域の特性に応じた生き物の生育環境を保全するため、表浜海岸や汐川干潟において、観察会などを通じた啓発や散乱ごみの回収などを実施したほか、葦毛湿原やナガバノイシモチソウ自生地の植生回復などの湿原保全事業を実施した。
- ▶ 外来生物対策を推進するため、市民や事業者と連携して、アルゼンチンアリをはじめとした特定外来生物の防除を行った。

2 自然の恵みの持続的な享受

- ▶ 自然の恵みを持続的に享受するため、豊橋産農産物の地産地消に関する取組、化学肥料や農薬の使用低減に取り組む環境保全型農業を推進したほか、耕作放棄地の発生防止及び解消に努めた。
- ▶ 水辺環境を適切に保全するため、河川やため池、海岸などで自然に配慮した改修工事や清掃活動を実施したほか、汐川干潟保全実践活動などを通じて豊かな自然環境の啓発に努めた。

3 生物多様性を支えるしくみづくり

- ▶ 「豊橋市生態系ネットワークづくり懇話会」を開催し、自然環境や生態系に関する情報共有や連携を進めた。
- ▶ 専門家、ボランティア及び「生物多様性の保全及び人材の育成に関する協定」を締結した市内の高等学校と連携し、アカウミガメ、トンボ類、メダカなどのモニタリング調査を実施するなど、新たな活動の担い手の育成及び生態系ネットワークの構築に努めた。

定量目標と指標

定量目標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
市内の生物多様性チェックリストの項目達成率※	100% (2020年度)	同左	85.7%					100%
指 標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
豊橋の自然に愛着や関心がある人の割合	61.2% (2020年度)	同左	59.6%					70.0%
自然環境関連イベント等への参加者数	1,804人 (2019年度)	856人	2,159人					2,200人

※ 生物多様性チェックリストの各項目の目標達成状況については次ページを参照

定量目標・指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

定量目標・指標の分析評価

- ▶ 市内の生物多様性チェックリストの項目達成率は、次ページのとおり、トンボの確認種数及び対象希少植物の分布種数の2項目でデータが不足しているなどの理由により評価不能とした。その他の項目では、アカウミガメの産卵成功率のみ、2021年度は32.6%と2020年度と比較して7.8ポイント下回った。この原因の詳細は不明であるが、産卵数は全国的に減少傾向である。
- ▶ 豊橋の自然に愛着や関心がある人の割合は59.6%であり、2020年度と比較して1.6ポイント減少した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出の機会が減り、自然に触れる機会が減ったことが原因であると考えられる。
- ▶ 自然環境関連イベント等への参加者数は2,159人であり、2020年度と比較して1,303人増加した。2021年度は、自然観察会や竜宮探検などの既存イベントが新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、これらの参加人数は減少したものの、新たに「530のまち環境フェスタ」にてブース出展し、新たな啓発の機会を創出した。

社会環境等の分析評価

- ▶ 外来生物法の一部を改正する法律が公布され、施行後は、市は国内への定着が既に確認されている特定外来生物の防除を行う努力義務が課せられることとなるため、この対応を検討する必要がある。

今後の展開

- ▶ 自然環境イベントの開催に加えて、チラシの配布、ポスターの掲示や動画の上映など、あらゆる手段を用いて、生物多様性の大切さを市民や来訪者に啓発するとともに、アカウミガメをはじめとした生物多様性の保全、外来生物の防除を適切に進めていく。
- ▶ 生態系を保全する活動団体メンバーや専門家の高齢化が進んでいるため、新たな担い手の確保を進めていく。

「市内の生物多様性チェックリストの項目達成率」のチェックリスト項目							
分類群	チェックリストの項目	チェックする内容	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
鳥 類	鳥類の確認種数	基準年度（2020 年度）から種数が維持されていること※ ¹	○				
魚 類	メダカの生息確認	対象水域でメダカ（在来種）の生息が確認されていること	○				
は 虫 類	アカウミガメの産卵成功率（産卵個体数/上陸個体数）	基準年度（2020 年度）から産卵成功率が維持されていること※ ¹	×				
昆 虫 類	トンボの確認種数	基準年度（2021 年度※ ² ）から対象池に生息するトンボの種数が維持されていること※ ¹	—※ ⁴				
	ヒメヒカゲの生息確認	葦毛湿原でヒメヒカゲが確認されていること	○				
植 物	対象希少植物の分布種数	市内で対象 36 種※ ³ の分布が維持されていること	—※ ⁴				
	葦毛湿原内の希少植物種の開花確認	葦毛湿原で希少植物種の開花が確認されていること	○				
	ナガバノイシモチソウの自生個体数・開花数	基準年度（2020 年度）から自生個体数・開花数が維持されていること※ ¹	○				
重 要 な ハビタット	葦毛湿原の総面積	葦毛湿原において 3.2ha の面積が維持されていること	○				

- ※¹ 基準年度及び現状の数値は、当該年度を含む過去 3 年度分の平均値を基本とする。また、自然現象や気象等による諸影響を考慮し、マイナス 5 % までの損失は許容することとする。
- ※² 2021 年度に基準年度の種数を確認する調査を実施予定
- ※³ 「レッドデータブックあいち 2020」に掲載された絶滅危惧種等より選定（IA 類 9 種、IB 類 15 種、II 類 10 種、その他 2 種）
- ※⁴ データが不足しているなどの理由により評価不能としており、項目達成率の算定から除外している。

市民や事業者と協働して、3 Rをより一層進めるとともに、環境負荷の少ない廃棄物処理を進めることにより、効果的で効率的に資源を循環するまちを目指します。

基本施策と取組状況

1 ごみ減量の推進

- ▶ 事業系食品ロスの実態を把握するため、市内事業者を対象としたアンケートやヒアリングを実施した。また、市民に対して全戸配布チラシで「てまえどり」などについて情報発信することで、食品ロス削減の啓発に努めた。
- ▶ 資源の再使用（リユース）を推進するため、大きなごみとして収集した家具類をリサイクル工房で再生し、その家具類の展示販売を実施した。

2 リサイクルの推進

- ▶ 資源回収の積極的な実施を促し、ごみ減量及びリサイクル率向上を図るため、地域資源回収に取り組む団体へ奨励金を交付した。
- ▶ 雑がみ分別への理解を深め、分別意識の向上を図るため、市内ホームセンター2店舗や市役所などで雑がみ分別お試し袋の無料配布を行った。

3 廃棄物の適正・安定的な処理の推進

- ▶ ごみの適正処理を推進するため、事業者に対してセミナーなどを実施し、事業者から出されるごみの処理方法などについて周知した。
- ▶ 豊橋田原ごみ処理施設の整備に向けて、「循環型社会形成推進地域計画（第2期）」を策定するとともに、豊橋田原ごみ処理施設整備・運営事業の入札公告を行った。

定量目標と指標

定量目標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	421g/人・日 (2019年度)	439g/人・日	429g/人・日 (速報値)					400g/人・日
指 標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
リサイクル率	27.2% (2019年度)	25.8%	23.4% (速報値)					30.0%
最終処分量	11,228 t [※] (2019年度)	10,376 t [※]	12,306 t [※] (速報値)					6,200 t

※ 焼却施設の故障により仮埋立てをしてあったもやすごみを掘り起こし、それを焼却して埋め立てた分を含んでいる。

定量目標・指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

定量目標・指標の分析評価

- ▶ 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は429g/人・日であり、2020年度の439g/人・日と比較して、2.3%減少した。SNSを活用した情報発信などの啓発に努めたことによる、ごみ減量に対する一人ひとりの意識の高まりが要因と考えられる。
- ▶ リサイクル率については23.4%であり、2020年度の25.8%と比較して、2.4ポイント悪化した。焼却施設による資源化量の減少により、総資源化量が減少したことが主な要因である。
- ▶ 最終処分量については、12,306 tであり、2020年度の10,376 tと比較して、1,930 t増加した。焼却施設残渣が増加したことが主な要因である。

社会環境等の分析評価

- ▶ 組成分析の結果、もやすごみにリサイクル可能な古紙が約16%、生ごみが約12%混入していたため、引き続き分別促進に取り組む必要がある。

今後の展開

- ▶ 安全で安定したごみ処理を推進するため、豊橋田原ごみ処理施設の整備及び運営事業を実施していく。
- ▶ 引き続き出前講座などによる食品ロス削減や分別促進のための啓発を進め、ごみ減量や環境に配慮した取組を推進していく。

大気や水環境などの改善のほか、環境美化活動や周辺環境と調和したまち並み景観の形成などにより、ゆとりとうるおいのある生活空間を創出し、心身ともに健全で快適に暮らせるまちを目指します。

基本施策と取組状況

1 大気・水環境等の保全

- ▶ 大気、水質、騒音などの常時監視を行い、環境基準などの達成状況を把握するとともに、環境の悪化を防ぐため工場及び事業場などに対して法令等に基づく立入検査、指導を実施した。また、公害苦情の発生時においては、迅速かつ適切に原因解明や改善対策を行った。
- ▶ 生活排水による環境に与える負荷を低減させるため、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を推進するとともに、浄化槽管理者などに対し適正な維持管理の指導啓発を実施した。

2 水資源の保全

- ▶ 広域連携により豊川水系における治水及び水資源の安定的確保を図るため、森林整備などの水源林地域対策事業に対して負担金を拠出した。

3 美しく暮らしやすいまちづくり

- ▶ 市民や事業者の環境美化活動への参加を促進するため、530運動環境協議会と連携して、市内一斉の530運動実践活動と呼びかけたほか、表浜海岸などでクリーンアップ大作戦を実施した。
- ▶ 不法投棄を未然に防止するため、監視カメラや看板を設置するとともに、監視パトロールを実施した。

定量目標と指標

定量目標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
大気等環境基準の達成率	90.5% (2019年度)	90.3%	90.7%					96.0%
指 標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
美化活動（530運動実践活動）の参加者数	162,345人 (2019年度)	38,707人	97,864人					163,000人
身近な生活環境保全への市民の満足度	46.2% (2020年度)	同左	46.0%					56.0%

定量目標・指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

定量目標・指標の分析評価

- ▶ 大気等環境基準の達成率は、90.7%であり、2020年度の90.3%と比較してほぼ横ばいであった。目標値達成にあたっては、水質汚濁に係る環境基準である渥美湾のCOD（化学的酸素要求量）並びに地下水（東赤沢町）の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、騒音に係る環境基準である道路環境騒音の改善が必要である。
- ▶ 美化活動（530運動実践活動）の参加者数は97,864人であり、2020年度の38,707人と比較して、2.5倍となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度に実施できなかった530運動実践活動などを実施できたことが要因である。
- ▶ 身近な生活環境保全への市民満足度については46.0%となり、2020年度の46.2%と比較してほぼ横ばいであった。騒音、悪臭、河川の浄化については市民から苦情が多数寄せられる一方で、解決までに長期化する傾向があるため、粘り強く監視を続けていく必要がある。

社会環境等の分析評価

- ▶ 大気汚染防止法が改正され、石綿に対する規制対象の拡大及び飛散防止対策が強化されたことから、工場及び事業場などに対して本内容を周知するとともに、立入検査及び指導を強化する必要がある。

今後の展開

- ▶ 環境汚染抑制のために、工場及び事業場に対して関係法令等に基づく監視や指導を行うことで、環境基準未達成項目の改善に向けた取組を進めていく。

地域の環境や歴史・文化について学ぶ機会を提供することで、新たな担い手を育成するとともに、市民や事業者と協働して環境保全活動を実践することで、環境に優しいライフスタイルが定着したまちを目指します。

基本施策と取組状況

1 環境に関する教育・啓発の推進

- ▶ 豊橋総合動植物公園では、自然環境や生物多様性への理解を深めるため、様々なガイドや出張授業をはじめとした教育プログラムを実施した。
- ▶ 市民参加型の環境イベント「530のまち環境フェスタ」では、リユース食器の導入により使い捨てとなる食器の使用を減らすなど、環境に配慮するとともに、イベントを通じて環境に優しいライフスタイルについて考えるきっかけを提供した。

2 環境保全活動の推進

- ▶ 公園や街路樹周辺などの清掃活動を支援するため、活動で必要となるゴミ袋などの資材の提供を行った。
- ▶ SDGsを推進する企業・団体に向けて、豊橋市SDGs推進パートナーの取組の紹介やSDGs啓発セミナーを開催した。

3 環境情報の収集・発信

- ▶ 豊橋市自然史博物館では、自然に親しみ、自然を大切にすることを目的に、動植物や郷土の自然などに関する資料収集や調査研究を実施した。
- ▶ 環境に関することを身近に感じてもらうため、新たな情報提供ツールとしてInstagramの豊橋市環境部公式アカウント（環境部Instagram）を開設し、SNSを活用した情報発信に努めた。

定量目標と指標

定量目標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
環境保全活動に取り組んでいる人の割合	69.4% (2020年度)	同左	67.2%					76%
指 標	基準値 (基準年度)	参考値 (2020年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	目標値 (2030年度)
環境学習で学んだ人数※	24,542人 (2019年度)	3,852人	27,841人					26,000人
環境情報の提供数	279件 (2019年度)	271件	266件					400件

※ 環境学習出前講座や学習イベント等への参加人数

定量目標・指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

定量目標・指標の分析評価

- ▶ 環境保全活動に取り組んでいる人の割合は67.2%となった。一方で、環境保全活動に関心はあるが、特に何もしていない人の割合は29.8%となっており、身近にできる環境保全活動の紹介や環境保全活動に取り組むきっかけづくりが必要である。
- ▶ 環境学習で学んだ人数は27,841人であり、2020年度の3,852人と比較して、7.2倍となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度に開催できなかった出前講座やイベントを開催できたことが要因である。
- ▶ 環境情報の提供数は266件となり、2020年度の271件と比較してほぼ横ばいであったが、広報誌やホームページなどによる情報提供に加えて、SNSや動画を活用することで、多様な媒体での情報発信を行った。

社会環境等の分析評価

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、イベント開催による参加型の学びの機会に加え、インターネット環境を利用した場所によらない学びの機会を提供し、それぞれの特徴を活かしていく必要がある。

今後の展開

- ▶ 引き続き出前講座やイベントの開催により環境学習の機会を提供するとともに、SNSをはじめとした多様な媒体での情報提供を行うことで、環境保全活動を実践するきっかけの創出を図っていく。
- ▶ 環境部キャラクター「かん田きょう子さん」の活用や、事業者と連携した情報発信を強化し、ライフスタイルの転換を促進していく。

重点取組の取組状況

重点取組

本市が目指す環境像を実現していくため、前期5年という短期で、特に重点的、優先的に取り組むべきものを重点取組としました。

重点取組は、複数の環境目標に貢献する横断的な取組とするとともに、SDGsの視点を重視し、環境・経済・社会の統合的なアプローチと多様なパートナーシップの強化によって推進します。そして、環境面だけでなく地域が抱えるさまざまな課題の解決につなげることを目指し、計画全体をけん引する役割を果たしていきます。

■ 重点取組とその達成により貢献する環境目標

	I	II	III	IV	V
重点取組 1 再生可能エネルギー利用 100%のまちづくり	✓		✓		✓
重点取組 2 みんなでつなげる生態系ネットワークづくり	✓	✓			✓
重点取組 3 食品ロス対策	✓		✓		✓
重点取組 4 プラスチックごみ対策	✓	✓	✓	✓	✓
重点取組 5 環境政策と福祉政策の連携			✓	✓	✓

重点取組 1

再生可能エネルギー利用 100%のまちづくり

取組内容・目指すべき方向性等

再生可能エネルギー利用 100%のまちの実現を目指し、市内事業者や団体、市民等と連携した取組を進めるとともに、積極的な普及啓発を行い、まち全体の脱炭素化へとつなげていきます。

取組状況

- ▶ 再生可能エネルギーの導入促進として、市民に創エネ設備などの導入費用の一部を補助し、公共施設においてもPPA事業の公募を実施した。
- ▶ 市民や事業者にとよはし版クールチョイスなどを通じ、省エネ・節電について普及啓発を図るとともに、エネルギーの地産地消の推進のため、来場参加型のイベントを開催した。

重点取組 2

みんなでつなげる生態系ネットワークづくり

取組内容・目指すべき方向性等

関係部局・地域の環境保全活動に取組む団体等との情報共有と連携を強化するとともに、継続的な活動ができるような人材育成と仕組みづくりを推進し、市内で一体的に生態系ネットワークづくりを進めます。

取組状況

- ▶ 自然環境や生態系に関する情報共有と連携を図るため、「豊橋市生態系ネットワークづくり懇話会」を開催し、自然環境や生態系に関する情報共有や調整を行うとともに、新たな有識者を委員に委嘱するなど、機能強化を図った。
- ▶ 市民の自然環境や生物多様性への理解を促進するため、豊橋総合動植物園において、身近な生き物や自然をテーマにした企画展及び教育プログラムを実施するとともに、小学校や大学と連携しカリキュラムの開発、実践を行った。

重点取組
3

食品ロス対策

取組内容・目指すべき方向性等

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」削減の取組を各主体がそれぞれ実践できるよう、市ではさまざまな啓発や情報発信を行うとともに、関係部局・団体等と連携して取組を進めます。

取組状況

- ▶ まだ食べられる食品が捨てられてしまう状況を把握するため、市内の事業者を対象に食品廃棄の実態調査を実施した。
- ▶ 食品ロスを出さない賢い生活スタイルを普及・定着させるため、残っている食材の使いきりや「てまえどり」などの身近でできる取組について周知・啓発した。
- ▶ NPO 法人などと協力してフードバンク事業を実施し、支援が必要な世帯へ寄附された食品を配布した。

重点取組
4

プラスチックごみ対策

取組内容・目指すべき方向性等

プラスチックごみによる海洋汚染などプラスチックを取り巻くさまざまな課題解決のため、必要性の低い使い捨てプラスチックの使用抑制、環境配慮製品の使用、資源の有効活用、適正な分別・リサイクルを基本原則とし、各主体がそれぞれの立場で取組を実践できるよう、啓発や情報発信を行います。

取組状況

- ▶ 更なるマイボトル・マイカップ利用を促すため、誰でも無料で利用可能な給水器の設置費用の一部を助成する給水器設置補助金を創設し、使い捨てプラスチックの削減に取り組む事業所を支援した。
- ▶ プラスチックごみによる海洋汚染などの海洋プラスチックごみ問題をテーマとした出前講座を実施するとともに、市内でマイボトルへの給水や飲料の販売に対応している施設や店舗の情報を更新した。

重点取組
5

環境政策と福祉政策の連携

取組内容・目指すべき方向性等

それぞれ単独では対応が困難なごみ処理と福祉的支援の2つの課題について、福祉部門と連携し、一体的かつ効果的な解決に取り組めます。

取組状況

- ▶ 家庭ごみをごみステーションに持ち出すことが困難な世帯を対象としたふれあい収集を実施するとともに、必要に応じた安否確認を併せて実施することで、福祉的要素を含んだごみの収集を行った。
- ▶ 不良な生活環境の解消に向けた原因者との相談時に、保健師を同行させることで健康状況の確認を実施するなど、福祉的支援を併せて実施した。